

7月 (定例)・臨時 教育委員会会議録

| | |
|--------------|----------------------------|
| 日 時 | 平成28年 7月19日 (火) 午前10時00分から |
| 場 所 | 山梨市役所 3階 応接室 |
| 出席委員名 | 市川今朝則・廣瀬孝子・幡野勝彦・林正文・三森智文 |
| 出 席 事務局員名 | 小川鉄男、高原歳徳、 |
| 委員会書記 | 小林徹 |

議題及び議事の概要

○議事

(1) 山梨市立学校・警察パートナーシップ協定 調印式について

市川教育長) 前回の教育委員会で審議後、関係機関で協議し協定書の内容がかたまった。調印式は7月21日(木)10時から日下部警察署にて行う。調印式の日から発効となる。報道機関へも情報提供されている。県内他の教育委員会でも協定締結が進むものと思われる。子ども達が大きな犯罪に巻き込まれないよう事前の連携により指導していけるのではないかと。

(2) 山梨県学力把握調査の結果について

市川教育長) 県独自の調査で小学校3年生、小学校5年生、中学校2年生を対象に実施された。山梨市全体と県との比較となっている。(資料により説明)。英語については、英語科教育の結果が出てきたのではないかと。

林) 各学校へ結果はいつているか

市川教育長) 自校のデータは各校で持っている。校長会で山梨市全体のデータ提供を行った。分析・対策も行うよう話した。

廣瀬職務代理) 保護者への情報提供は

市川教育長) 現在、伝達の方法も含めて検討中。結果だけではなく分析や対策も必要と考える。

幡野委員) この調査は初めてか

市川教育長) 数年前から、県としても学力向上に対しての危機感から始まった。

(3) 小学校英語科教育特例校について

市川教育長) 既に何度か説明させていただいているが、当初はH32年全国的に70時間となることを見据え、現在35時間、H29年50時間、H30年60時間、H31年70時間、H32年70時間の計画を立てた。しかし、状況が2年程度前倒し、つまりH30年に全国的に70時間となる可能性がある。こうなった場合、H29年に50時間、H30年以降70時間の計画としたい。特例校の申請までに状況をよく見極めながら申請することとしたい。

幡野委員) 県内で英語科特例校は他にあるか

小川課長) 山中湖村で特例校を行っているが、小学校1年から6年まで教科としてというのは山梨市だけ。

廣瀬職務代理) 現場の対応は大丈夫か。慎重に考慮してあげたい。

市川教育長) 一般に現状の外国語活動35時間を英語科に割り振ったとしても、70時間となることであと35時間増やさないといけない。約週1時間をどこから持ってくるかは、国の方針がまだ見えてこない。校長会では市の方針は伝えてある。

廣瀬職務代理) JTEも増やしたほうが良いのでは

市川教育長) JET増員は要求していきたい。現場でもJETの要望が強く出ている。

林委員) 岩手小で始まったのはいつから

小川課長) H21年岩手小学校、H24年北中学区、市内全小学校はH26年から。

市川教育長) 特例校申請内容については、動向を見極めるなかで申請することで了承いただきたい。

一同) 了承

(4) ことばの教室について

小川課長) 山梨市と甲州市で東山梨地区ことばの教室を共同設置している。来年度甲州市塩山南小に言語学級を設置したいとのことである。来年度は山梨市単独設置となる。日下部小学校に設置されている共有備品の分配や、甲州市から通ってきている保護者への説明、今後の予算措置等、実務者レベルで今後話し合いを重ねる。

幡野委員) 言語学級ということか

小川課長) 正式には、言語障害・発達障害・情緒障害通級指導教室ということで現在、塩山南小にはなかった言語障害にも対応するようになるとのこと。山梨市から34人、甲州市から16人通っている。

廣瀬職務代理) 日時は

小川課長) 基本的には毎日。授業が集中的に行われるのは2時50分、3時50分の2コマ。

幡野委員) 教員配置は大変ではないか

小川課長) 現状教員は6人。配置については今後の検討課題。

(5) その他

なし

次回 9月6日(火) 10時から

議決事項

小学校英語科教育特例校申請に係る内容について

その他、会議において必要と認めた事項

| |
|--|
| |
| |